

地域説明会概要

1. 地域説明会開催概要

「大台ヶ原自然再生推進計画」の策定にあたり、事前に、地域の方々をはじめ多くの方々のご意見を伺い、よりよいものにしていくため、下記のとおり地域説明会を開催した。

環境省より「大台ヶ原自然再生推進計画（案）」の内容について説明を行い、それに関する質疑応答を行った。

2. 議事概要

(1) 上北山村

日 時 平成 16 年 11 月 15 日（月）19:30-21:00

場 所 上北山村 「ホテルかみきた」2F 大広間

出席者 43 名（長嶋俊介利用対策部会座長及び事務局を除く。）

議 事

- 1) 開会の挨拶
- 2) 計画案の説明
- 3) 質疑応答、意見交換
- 4) 閉会

◇質疑応答

会場 1：マイカー規制が計画されているが、マイカーの排気ガスが大台ヶ原の森林の衰退に与える影響は科学的にはっきりしているのか。大台ヶ原の大気汚染については、阪神工業地帯、高速道路の排ガスなどが大台ヶ原に滞留することが問題ではないか。

環境省：それについて調査はしていない。大台ヶ原の現在の状況はいろいろな複合的な要因が影響していると考えている。今後は、長期的な調査・観測が必要となるであろう。検討していきたい。

会場 1：大気汚染の主な要因と思われる阪神工業地帯、高速道路などの影響を考えず、ドライブウェイを走るマイカーのみに責任を負わせるのは、弱いところにしわ寄せしているということではないか。

マイカー規制の乗換え駐車場を、和佐又山や辻堂山を造ったのでは、大気汚染という目で見ると大台ヶ原の中に造っているようなものである。白川渡でも大差はない。国道 169 号ではループ橋ができてから大型トラックなどが多く、周辺の山は近年、年中かすみがかかったようになっている。本当に大台ヶ原のことを考えるのであれば、国道 169 号を閉鎖しなければならないと思う。

環境省：基本的には総合的・複合的要因であると考えているが、できることとできないことがある。できるところを少しでも進めていきたいと考えている。長期的な調査

等が必要なものについては、長期的視野をもって考えていきたい。

会場 1：シカの問題だが、大台ヶ原にこんなにシカが集まってきたのは三重県の国有林の伐採の影響であり、林野庁の責任である。今回の宮川村の台風被害についても、人工林化、乱伐によって山の保水力がなくなったことが要因であろう。

環境省：大台ヶ原における自然再生計画の検討においては、必要に応じて、林野庁等、他分野とも連携して行い、今後も一体となって取り組んでいきたい。

会場 2：「キャンプ指定地」を設けることが自然再生に寄与するというのはどういうことなのか説明願いたい。また、他地区の事例などあれば教えて欲しい。

環境省：「キャンプ指定地」の設置を検討する理由としては、テント等での宿泊で、より豊かな自然体験ができるのではないかと考えるからである。

他地区の事例については、今後調査を行っていく予定である。

会場 3： 計画（案）の中に挙げられている目標は、環境省あるいは近畿地区自然保護事務所、自然再生検討会のうち、誰の目標なのか。

環境省：計画策定主体は近畿地区自然保護事務所、つまり環境省の目標であります。

会場 3：環境省がコンセンサスが得られたものとして計画しているのであれば、目標に向かって邁進していけばよいのではないか。検討も大切であるが、足踏みしているように感じられる。地元や各種団体に気を遣う必要はないのではないか。

環境省：合意形成のもとに計画を推進していくことが重要である。環境省が行っていることを地元の人に認識していただかないと計画は進まない。今回のように計画内容を紹介することで、地元をはじめ、利用者の方からも意見をもらい、参考にしつつ、少しずつでも着実に計画を進めていきたい。

会場 4：シカの駆除についても、すぐに実施していかねばならないと思う。やるべきことはすぐに実行に移していかねば、手遅れになってしまうのではないか。

環境省：検討し、進めていきたい。

会場 2：昭和 30 年代を目標に進めるのであれば、国有林も含めた自然再生を進めてもらいたい。

環境省：検討していきます。

(2) 川上村

日 時 平成16年11月25日(木) 19:30-20:45

場 所 川上村役場 第1会議室

出席者 27名(長嶋俊介利用対策部会座長及び事務局を除く。)

議 事

- 1) 挨拶
- 2) 計画案の説明
- 3) 質疑応答・意見交換
- 4) 閉会

◇質疑応答

会場1：白川渡が駐車場になれば、白川渡より大台ヶ原寄りで営業している商店への経済的な影響は大きいと考えられる。諸手を挙げて賛成することはできない。村への経済効果についても不安がある。

環境省：マイカー規制に関して計画の中で挙げているものは、環境省の案であり、乗換え駐車場の位置、規制日数、シャトルバスの運行間隔、乗換え駐車場の活用などの具体的な項目や、地域への影響とその対策などについては、計画の策定後、地元の方々の意見を聞きながら地域振興と両立できるような方向で検討を進めていきたい。

会場2：交通手段の中ではバスの利用を中心に検討されているが、タクシーについても組み込んで欲しい。

環境省：今後、具体的な検討を進めていく中で検討していきたい。

会場3：入山規制を実施することは考えているのか。日出ヶ岳から正木にかけての木道は、やりすぎだと思う。植生を踏まないという点では良いと思うが、環境や景観にとって本当に良いのかどうか。

環境省：大台ヶ原の歩道については基本計画をつくったので、それを踏まえて順次歩道を整備していく予定である。木道に関しては、過剰整備であるという意見を頂いており、そういう面はあると思う。反面、植生を踏みつけない、土壌の回復を図ることが出来るという効果も期待できるので、植生の回復状況などを検証しつつ、場所によっては撤去も含めて検討する旨、基本計画に盛り込んだところ。

また、利用制限については、西大台において、利用調整地区の制度のもとで、手遅れにならないうちに自然の保全・再生をはかり、一方で質の高い環境学習を実現していく方向で検討していきたいと考えている。

会場4：三津河落山はロープを張って『登山道ではありません』という注意看板がある『禁止』とした方がよいのではないか。あいまいな表現なので写真家などはロープを乗り越えて入っていき、危険な箇所では撮影をしている。指導員として正確な指導をするために、禁止なら禁止とはっきりした表現にしてほしい。

西大台には密猟者がおりコマドリ、ルリなどを捕っている。きちんと調査してほしい。

環境省：登山道については全体を見直すなかで考えたい。表現についてはあいまいなものはよくないと思う。密猟については具体的な話を聞かせてほしい。対策について今後検討する。

会場5：村づくりの点では、都会から一人でも多くの人に来て欲しい。自然の保全との両立は難しいところである。マイカー規制の効果について具体的な数値はあるのか。渋滞対策としてマイカー規制以外の方法を検討したのか。

環境省：マイカー規制以外の方法として、公共交通利用の呼びかけ、山上駐車場の有料化など様々なアイデアがあると思うが、全国の多くの国立公園でマイカー規制は行われており、渋滞対策としてもなじみがあり、一般的に受け入れられていると考えている。また、実際、アンケート調査結果にあるように、混雑期の利用者からは何らかの対策をしてほしいとの意見があり、具体的な回答としてマイカー規制が過半を占めている。

地域振興との両立のあり方については、地元の方々と共に方策を検討したい。マイカー規制の効果について、具体的な数値はまだ出していない。駐車場の位置にも関係してくるので、具体的な検討を進める中で調査していきたい。